

（ 「あすか夢耕社」 農業を基盤にした地域活性化 ）

平成10年6月に設立された（財）明日香村地域振興公社（愛称：あすか夢耕社）では、同村の農家をバックアップする事業としてオーナー制度や、農産物と農産加工品の販路開拓などの事業を行っている。

■オーナー制度：同公社がオーナーを募集

「棚田オーナー」は、応募者が棚田を借りて、苗代づくり、田植え、草刈り、かかし立て、稲刈り、脱穀、粃すり、収穫を体験する。他には、棚田で栽培した米を使ったお酒をもらう「うまし酒オーナー」、みかんの摘果・収穫の作業体験をする「一本木オーナー」、草木染めや、竹・木工細工、炭焼きの体験など自然を体感できる「森の手づくり塾」などがある。（それぞれ会費負担あり）

■遊休農地活用都市農村交流：同公社が支援

明日香村阪田地区自治会と橿原市白檀地区自治連合が連携し、農作業を体験しながら住民交流を図っている。阪田地区の人たちが作り方を教えて、スイートコーンや、黒大豆枝豆、じゃがいもなどを栽培している。

■観光農業（あすかいちご狩りパーク）

：同公社で予約受付

1月上旬～5月末まで7戸の農家と提携し、実施している。完全予約制で30分食べ放題。県内、近隣他府県から訪れるお客が増加し、18年の入園者は前年比6割増の約20,000人となる見込み。

■農産物等の直売（「あすか夢販売所」「明日香の夢市」）

：同公社が運営

「あすか夢販売所」は同村御園で平成11年から仮設で営業してきたが、平成17年3月本格的な店舗をオープンした。

生産者が自らの判断で価格を設定し、野菜、果物、花などを店舗に陳列する。売上金額が年々増え、作付面積も広がり、作物の種類も多彩になってきている。

同公社常務理事の木村衛氏は「自分の家で食べる分だけ作っていた兼業農家も野菜などを販売所へ出すと飛ぶように売れるので喜んでいる。売ればもっといいものを作ろうと、頑張ってくれている」と最近の様子を話されていた。

「明日香の夢市」は同村島庄で平成9年に幼稚園の廃舎を利用して開設し、老朽化から平成18年4月に新築オープンした。館内には、特産品、農産加工品の販売（夢市）・村内産の農産物を使用した古代米御膳、あすか鍋御膳などのメニューがある農村レストラン（夢市茶屋）・農産物の加工施設（味工房）・観光案内の施設が揃っている。

■飛鳥宅配便：同公社の直営

種類は、①四季の農産物・飛鳥米・加工品詰合せセット、②旬の取れたて野菜、果物など、③飛鳥米、④古代米（黒米・赤米・緑米）、⑤農産加工品（菓子・餅・漬物など）。

特に飛鳥米がおいしいと好評で、全国各地からの注文が年々増えている。（上田）



あすかいちご狩りパーク（写真提供：（財）明日香村地域振興公社）



あすか夢販売所（写真：当センター撮影）

問合せ先：財団法人明日香村地域振興公社
奈良県高市郡明日香村島庄154番地の3
TEL：0744-54-9200 FAX：0744-54-5118

これからの主な催し

〔四季の花〕

●6月上旬～7月上旬【あじさい】

長谷寺

ほとんの花で広く知られているお寺。登廊から眺める新緑と境内各所に咲く約1万株のあじさいも一見の価値がある。

近鉄大阪線 長谷寺駅 徒歩20分

●6月下旬～8月中旬の午前中【はす】

喜光寺

「試みの大仏殿」といわれ、東大寺大仏殿の10分の1サイズの試作であると言い伝えのある金堂。この壮麗なお堂の周囲に、鉢植えのはすの花が沢山並んでいる。

近鉄大和西大寺駅 徒歩20分。

または、近鉄橿原線尼ヶ辻駅 徒歩10分